

第24回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会議事録（要旨）

1 開催日時：平成29年11月2日（木） 10時00分～11時00分

2 開催場所：熊本市役所 12階会議室

3 市民公益活動支援基金運営委員

- ・出席者： 古賀 倫嗣 委員長 （熊本大学教育学部教授）
佐藤 和弘 副委員長（株式会社 地域総研 代表取締役）
越地 真一郎 委員 （地域づくりアドバイザー）
中島 久美子 委員 （特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場
連絡会 理事長）
松枝 清美 委員 （公募市民）
紫垣 正刀 委員 （市民局市民生活部長）
藤川 潤子 委員 （市民局市民生活部広聴課長）

4 配布資料

資料1 平成30年度助成予算額

資料2 平成30年度くまもと・わくわく基金助成事業のご案内

資料3 今後のスケジュール

5 会議録（要旨）

【議事事項】

（1）平成30年度助成事業予算額

（資料1に基づき、事務局より説明）

（越地委員）

ここに平成29年度と平成30年度の金額が示してあるが、過去に遡って見るとだんだんと低下する傾向にあるのか。それから、今回は寄附額に応じて200万円の助成をするということだが、仮に300万、400万という寄附があれば、助成予算額も300万、400万になることもあり得るのか。過去の例などを含めて教えて欲しい。

（事務局）

まず、寄附額の傾向については、昨年に比べると減少しているが、基本的には横ばいであると思っている。例えば、直近の3年間でみると、今年は約210万と少ない方だが、昨年が約280万、一昨年が約250万と、大体200万の半ば後半ぐらいになっている。

それから、もしも寄附額が大きくなった場合については、確かに助成額を大きくしていくことも考えられるところかと思うが、そのときには、改めてその用途などの検証、検討が必要かと思う。

(越地委員)

逆に１００万や数十万単位の寄附額になれば、繰越金もなく、助成額も当然下がるということになるか。

(事務局)

それについて、先ほど過去の例を含めてとお尋ねがあったが、平成２７年度から安定的な助成を目標にしており、寄附額、助成額ともに２００万を目安としている。それまでは、入ってきた寄附額をそのまま助成額にするような組み立てをしていたため、一番高かったもので、平成２６年度は総額で約２９０万助成したこともある。それ以前も申し上げると、平成２４年、２５年、２６年とそれぞれ、およそ１００万、１５０万、２９０万の助成をするなど、大幅に増減していた。

現在は、なるべく安定的な助成をするため、例えば寄附額が２００万以上あっても、ここ３年間については、その余剰分を次回に回して、先ほどおっしゃったように、万が一目標額を割り込んだとしても、２００万の助成ができるような体制を取っている。

(越地委員)

そういった目標については、やはり安定した助成を考えると大事なところかと考える。予算金額に応じて増減すると非常に不安定だし、イメージとしても、申請する側からしても予想がつかない。総額で毎年２００万の助成があるんだという安定感のようなものは、大きな意味を持つと思うため、ぜひ２００万の目標額に向けて、寄附を集めるための努力が必要になってくると思う。

(古賀委員長)

他にご質問、ご意見等はあるか。

ただいまご説明があったように、ある程度２００万ぐらいをひとつの目安として、持続的な支援ができるような、そういった考え方で進め、それとともに、従前からずっと審議をしているが、寄附を増やすための工夫というものをこれからも取り組んでいくということで、議題（１）についてはご了承いただいたということでよろしいか。

(委員全員、異論なし)

(２) 平成３０年度助成事業募集要領

(資料２に基づき、事務局より説明)

(古賀委員長)

ただいまのご説明に対して、ご質問、ご意見等はあるか。

特に、今回は２ページ目に東京エレクトロン九州（株）様の紹介を入れて、これを寄附額の増大、あるいは向上といったことに繋げるため、またもう一つは、助成を受ける団体にとっても、こういったかたちでスポンサーとの繋がりがあるといったことも理解していただくというご説明であった。

特にご意見やご異存がなければ、議題（２）については、原案どおり承認とさせていただきます。

(委員全員、異論なし)

(3) 副委員長の選任

(追加議事として、当日配布の次第に記載)

(古賀委員長)

この度、佐藤副委員長が、仕事の都合により12月3日をもって本運営委員を辞任されることになった。このことにより、佐藤委員については、辞任の意向に伴い副委員長職を降りられることになるため、新たに副委員長を選任する運びとなった。

本年度の委員会は、あと1回、プレゼンテーションの審査だけとなるが、その際に副委員長を設置しておくための議題となる。副委員長について、どなたかご推薦いただければと思うが、その前に何かご意見、ご質問はあるか。

佐藤副委員長は、本委員会に長く関わられており、私より先輩であるが、今回仕事の事情でやむを得ないとの申出があり、本日新しい副委員長職の選任ということになった。こんなことを申し上げてはなんだが、2名の市職員の委員の方、そしてやはり公募委員の方は、なかなか副委員長職は難しいんじゃないかと考えている。何かお考えやご意見があれば。

(越地委員)

委員の補充はされるのか？

(古賀委員長)

あとで事務局からも説明してもらうが、現委員の任期が今年度いっぱいであり、いま申し上げたように今年度委員会はあと1回だけなので、今回については委員の補充はしない。また、本日配付している運営委員会の要綱第2条をみると、委員は7名以内と定めてある。そのため、必ずしも7人である必要がない、という理解になる。

中島委員はいかがか。

(中島委員)

よければ、ぜひ越地委員に副委員長をお願いしたいと思っている。

(古賀委員長)

越地委員にとのご推薦があった。越地委員はいろいろと大変なお仕事を抱えておられるし、もう一つ別の関連事業についても委員をお願いしたところだが、いかがだろうか。

(越地委員)

はい、構いません。

(古賀委員長)

それでは、只今中島委員より、越地委員を副委員長にという推薦があったが、いかがだろうか。

(委員全員、異論なし)

(古賀委員長)

それでは、本日より佐藤委員の副委員長職を解き、越地委員に副委員長をお願いする。

ここで、佐藤委員と新しく副委員長に就任される越地委員より、一言ご挨拶をいただきたい。佐藤副委員長からどうぞよろしくお願いします。

(佐藤副委員長)

この度は、私の仕事上の都合で京都に移転することになった。このため大変急であるが、副委員長職の辞任の申出をさせていただいたところ、たった今、副委員長が越地委員に決まり安堵している次第です。

私が携わってきたこの「くまもと・わくわく基金」というものは、住民の方々が自発的に活動される中から、いかに行政として支援していくか、また、民間の団体の方々も含めて、どう支援していくかという、まちづくりの中では原点になるような事業のため、私にとっても非常に勉強になり、また向こうの方でもこういう活動を広めていくような努力ができていると思う。

ただ、短い期間ではあったが、この委員としての役割はほとんど満足に果たせないまま辞任させていただくことを、どうぞお許し願いたいと思う。

今後とも、当委員会、またずっと支えていただいた地域活動推進課の方々のご発展を祈念して、この場で御礼に代えさせていただきたい。どうも本当に、お世話になりました。

(古賀委員長)

佐藤副委員長に置かれては、平成26年度から2期4年間の長期間にわたってご尽力いただき、ありがとうございました。それでは続いて、越路委員よりご挨拶をお願いしたい。

(越地新副委員長)

副委員長選びということになった訳だが、なにせ対象者は2人という、サイコロを振ってたまたま私が選ばれたということにほぼ近いのと、そういった捉え方をしている。今日の副委員長選びというのは、非常にある意味、オープンであるというところを斬新に受け止めており、こういうものは、大方の場合、前もって内諾を取ってあるものだが、その辺もまったくなく、文字通りの互選にしようという辺りは、オープンで非常にいいなと思った。

そういう背景も含めて、サイコロを振られて当たったからには、それはもう当然やらせていただくと思う。そういったオープンさが、ここの持ち味のひとつかなと思って、くまもと・わくわく基金らしいなというイメージを重ねて持った。

抱負については、いま佐藤委員がおっしゃったようなことが原点かと思う。この「わくわく」という言葉には、何をやるにしても「面白そうだ」、「やってみたい」という誘引や、誘い水になるものなど、いろんな意味が込められている訳だが、その背景には、当然、現実的な問題としてお金が必要になってくる。この「くまもと・わくわく基金」には、そういった金銭的な補助をしながら、しかしあくまで、アイデアや心意気に対して、私どもがバックアップしていこうという精神が脈打

っているものだと思うので、ぜひ、これがさらに拡大していけばいいなと思っている。どうぞよろしく願いいたします。

(古賀委員長)

それではここで、先ほどご説明があったが、改めて事務局から委員定数についての説明をお願いしたい。

(事務局)

任期については、先ほど委員長からご説明をしていただいたとおり、今年度は現委員が任期満了となる3年目の年であり、また、今年度の委員会は2月16日開催予定のプレゼンテーション審査のあと1回を残すのみとなる。そのため、現在の委員でプレゼンテーションのご審議をいただきたいということ、運営要綱第2条でも「7人以内をもって組織する」としていることから、この6名の委員の皆様で2月16日のプレゼンテーションの審査会を行っていただきたく、お取り図りをお願いしたい。

(古賀委員長)

いまの説明でよろしいだろうか。要綱上は7人以内であれば問題がないということである。よろしければ、以上のことについて承認とさせていただく。

(委員全員、異論なし)

【今後のスケジュールについて】

(資料3に基づき、事務局より説明)

(藤川委員)

ステップアップ助成事業には、今までに申請経験のある団体が申請してくることもあると思うが、過去にいろんな事業報告を見ていて、不正な経理やあまりにその内容がよくない団体に対して、今後申請できないというようなペナルティはあるのか。

(事務局)

要綱では、そういった申請を制限するようなペナルティを科す定めはない。また、明らかな不正経理があった場合は、要綱に虚偽の申請を理由とした交付の取り消しが定めてあるが、今のところ1件もない。あるとすれば、先ほど募集要領の説明で申し上げたような、領収書の不備や経理の組み立てや管理について十分に理解されていないような、指導程度のものがある。

(古賀委員長)

私の経験で申し上げますと、不正経理といった意図的なものではなくて、何もわからずに書いている状況であるため、これについては、事務局で適正な指導の下に書き直させるという対応とさせていただく。他に何かご質問等はあるか。

(越地委員)

2月16日のプレゼンテーションは終日になるかと思うが、朝は10時ぐらいからか。

(事務局)

可能性としては、もう少し早いと考えられる。申請件数によってタイムスケジュールが変わってくるため、募集期間が終わったら、正式な日時をご案内させていただきたい。

(古賀委員長)

昨年度は、こういった日程で開催したか。

(事務局)

昨年は、朝9時頃からスタートして、審査も含めて午後5時、6時頃までかかった。

(古賀委員長)

確かに、午後3時あたりまでプレゼンテーションを行い、その後、運営委員会の中で採択の決定をしたと記憶している。昨年のプレゼンテーションは何団体あったか。

(事務局)

昨年のプレゼンテーション団体は、15団体あった。それぞれ1団体あたり、10分程度の時間がかかる形としていた。

(古賀委員長)

今回も昨年から多くも少なくもなく、大体それぐらいの申請件数が想定されるだろう。そうすると、朝早くからの日程になるかと思うため、皆様のご予定に入れていただければと思う。

【閉会】

(古賀委員長)

これをもって、第24回市民公益活動支援基金運営委員会を閉会とする。

(終 了)